



プロジェクト名: 航空機用先進システム実用化プロジェクト

研究開発の目的

- ・航空機産業は、最先端の技術が適用される典型的な研究開発集約型の産業、かつ極めて広い裾野を有する総合産業である。
- ・今後、旅客需要は世界的に大きく伸び、今後20年で約2倍になることが想定されている。
- ・2020年代に開発が開始される想定の子世代航空機には、さらなる安全性・環境適合性・経済性が求められ、また2030年代には、電動推進技術の客先への納入が予想される。
- ・本研究開発では、これらの社会ニーズに対応した軽量・低コストかつ安全性の高い先進的航空機用システムを開発し、次世代航空機に提案可能なレベルにまで成熟させることを目的とする。

プロジェクトの規模

- ・事業費総額 102.7億円(予定)
- ・NEDO予算総額 102.7億円(予定)
- ・実施期間 平成27～35年度(9年間)

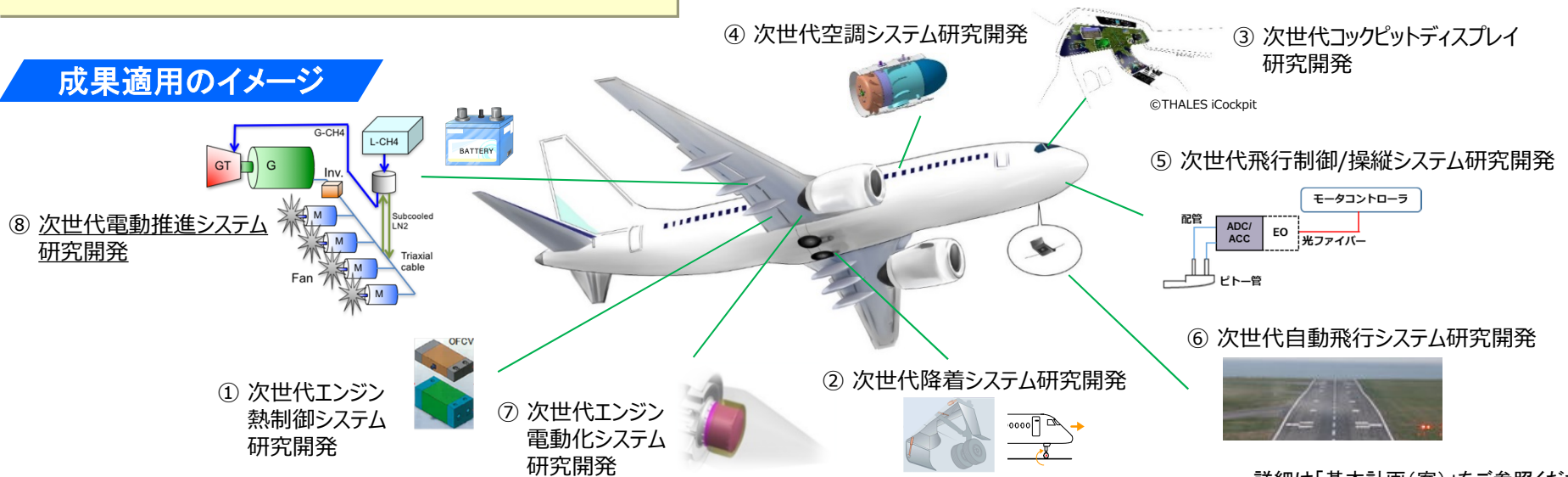
研究開発の内容

本研究開発では、次世代航空機に提案可能な航空機用先進システムのプロトタイプモデルを開発し、地上ないし飛行環境下で従来のシステムよりも優れた性能・機能等を有することを実証する。

これまでの研究開発では、①エンジン冷却系の熱負荷大容量化に向けた高効率・軽量コンパクトな熱制御システム、②MEA(More Electric Aircraft)化の技術動向に対応した降着システム、③先進の表示デバイス技術や双方向パイロット・インタフェース技術等を用いたコックピットディスプレイ、④電動化による発熱の増加に対応した空調システム、⑤飛行制御のバックアップシステム、⑥カメラによる画像処理を用いた自動飛行システム、⑦エンジン内蔵型電動機の開発を進めてきた。

さらに平成31年度から、本研究開発の目的に合致する「次世代電動推進システム研究開発」を追加して実施する。詳細については、基本計画(案)別紙1の研究開発項目⑧を参照のこと。

成果適用のイメージ



詳細は「基本計画(案)」をご参照ください